

やりの
槍の五千石

平野権平長泰

【ひらのごんべいながやす】



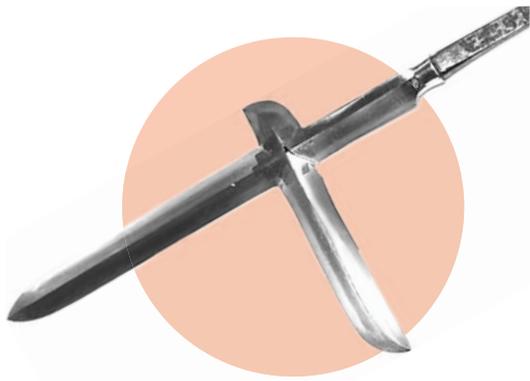
▲賤ヶ岳合戦図屏風(大阪城天守閣蔵)



◀平野権平長泰の拡大図

白の羽織を着て、金のうちわを腰に差しているのが平野権平長泰と説明されています。

現在放映中のNHK大河ドラマ「真田丸」。
ドラマの中で、主人公の真田信繁(幸村)の上司として登場する「平野権平長泰」をご存知でしょうか。彼こそが、「賤ヶ岳の七本槍」と称され、その戦功により、大和国十市郡内に五千石を拝領し、わがまち田原本の領主となった人物です。田原本町は、明治まで平野家十代の領地として発展しました。今月号では、「平野権平長泰」を通して田原本の歴史を振り返ります。

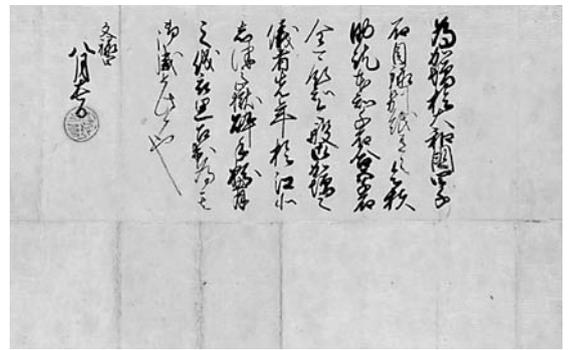


▲長泰が実際に合戦で用いたとされる槍の穂先 (本誓寺蔵)

賤ヶ岳の七本槍

平野権平長泰は、尾張国津島（現在の愛知県津島市）の生まれ。通称は権平。天正7年（1579）21歳のころより木下藤吉郎（のちの豊臣秀吉）に仕え、各地を転戦した長泰は、天正11年（1583）賤ヶ岳の戦いで柴田勝家の軍を討ち、秀吉の天下取りに大きく貢献しました。この時の功績によって、福島正則、加藤清正らとともに、「賤ヶ岳の七本槍」と称され、その名を天下にとどろかせることとなり、三千石の領地が与えられました。

その後、賤ヶ岳の旧功が見直され、文禄4年（1595）に大和国十市郡内に田原本村など「五千石」の領



▲平野権平宛豊臣秀吉朱印状 (福岡洋介氏所蔵/町指定文化財)

地が与えられました。時に長泰37歳でした。この時、豊臣秀吉が長泰に宛てた感状（右写真）は、町の文化財に指定されています。

長泰の人柄

長泰は田原本には住まず、京都伏見に屋敷を構え、教行寺に寺内町を築かせて田原本の地を統治しました。また、茶の湯や和歌、能楽にも造詣が深いなど文化的素養も高く、代々細川家や公家の船橋家との親交が深かったという記録も残されています。

関ヶ原の戦いでは徳川方につき、徳川家康、秀忠の信望も厚く、家康が駿府城（静岡県静岡市）に隠居す

ると、城下の安西に屋敷を与えられ、寛永5年（1628）、長泰は安西の地で70歳の天寿を全うしました。

平野家の陣屋町

長泰の没後、二代目長勝は田原本に入り、寛永12年（1635）、現在の町役場付近に陣屋（役所）の築造を開始します。当時、寺内町を経営していた教行寺との支配権を巡る争いの末、長勝は教行寺を退去させ、その跡地に円城寺（現在の浄照寺）と本誓寺が置かれました。

教行寺により形成された寺内町は、陣屋を中心とした陣屋町として引き継がれ、寺川の水運と中街道（古代の幹線道路）沿いという好立地から物流拠点として、商業が大いに栄え、大きな問屋が軒を連ね「大和の大坂」とも言われました。

その後の平野家

平野家は文禄4年（1595）から実に約280年間、国替にもあわず十代にわたって田原本を統治しました。賤ヶ岳七本槍の福島正則、加藤清正らが大名になりながらも改易されて所領を失い、大名家として続かなかつたのに対し、平野家は旗本でしたが明治時代まで安泰だったことは特筆すべきことです。石高は五千石ですが、江戸時代を通じて旗

本交代寄合として参勤交代も務め、大名並みの待遇でした。

そして明治元年（1868）には一万一石八斗を与えられ待望の大名となり、田原本藩となりました。

明治4年（1871）に廃藩置県で奈良県に編入されましたが、藩主はその後男爵に叙爵されており、その後貴族院議員となり昭和戦前に華族制度が廃止されるまで続いたようです。

田原本ふるさとかるたにも「平野権平」が登場



わが殿は七本槍の平野権平

「田原本ふるさとかるた」は、町の歴史や文化に親しんでほしいという思いから、町観光ボランティア「磯城のみち」の発案により平成21年に完成しました。

「平野権平」の札もかるたに登場し、『わが殿は七本槍の平野権平』と読み札に紹介されています。

観光ボランティアガイドと巡る 平野家ゆかりの地

町内には、平野家ゆかりの地が残されています。そのスポットを観光ボランティアガイドの会の皆さんに紹介してもらいました。

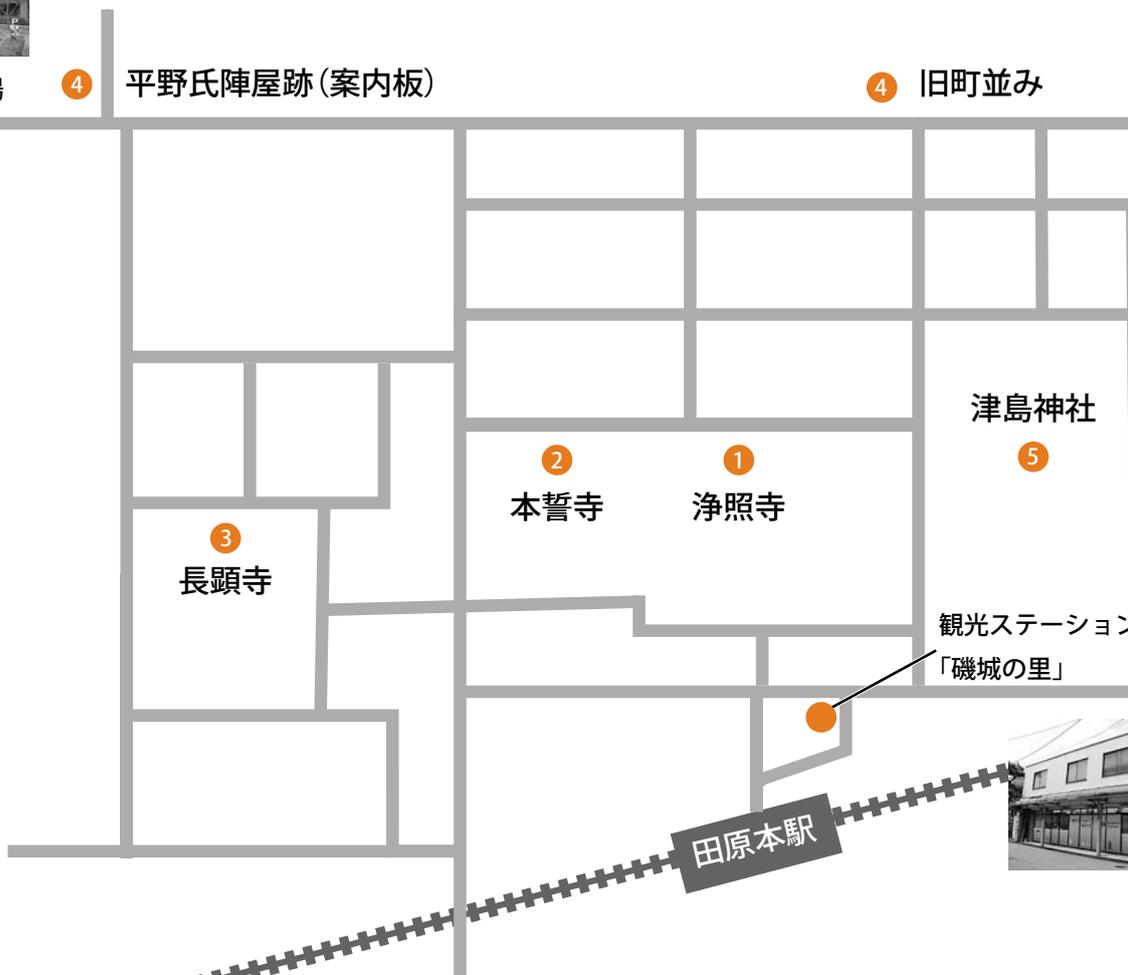
領主平野家が築いた田原本の歴史に思いを馳せながら、まちを歩いてみませんか。



田原本町役場
(町民広場)

④ 平野氏陣屋跡 (案内板)

④ 旧町並み



領主平野家の菩提寺

② 本誓寺



浄照寺と同様に、教行寺の跡地に建立され、平野家の菩提所と定められました。境内には、2代目長勝・9代目長発の霊廟が建てられています。



▲長泰のものとして伝えられる塗膳 (本誓寺蔵)

太鼓楼が時代の面影を残す

① 浄照寺



慶安4年(1651)、2代目長勝によって創建。この地には教行寺が所在していましたが、平野氏との支配権をめぐる争いから退去を命じられ、跡地に浄照寺が建てられました。本堂は県の指定文化財となっています。

ぎおん
祇園祭は中和最大の夏祭り

⑤津島神社



かつては祇園社と呼ばれ、^{ごずてんのう}牛頭天王を祭神としました。江戸時代に領主平野家の^{そんすう}尊崇をあつめました。平野氏の本貫地である尾張国の津島社も、牛頭天王を祭神としたため、明治2年(1869)、社名を津島神社に改めました。

私たちがご案内します

観光ボランティアガイドの会「磯城のみち」



ボランティアガイドと一緒に、田原本のまちを散策してみませんか。目的・コース・所要時間など、ご希望に合わせてご案内します。

参加人数 原則として3人以上

料金 ガイド料は無料(ただし、交通費としてガイド1人につき1,000円が必要)

ガイド時間 午前9時～午後4時ごろまで

申込方法 ガイド利用日の2週間前までに町観光協会へご連絡ください。

問 町観光協会 ☎・FAX 33-4560
(火曜日は休館)

ぶらんちようきゆう
領主平野家の武運長久の祈願寺

③長頭寺



寺伝によると当時創建以前は既に^{みょうけんしんこう}妙見信仰が盛んでしたが、領主平野家の武運長久の祈願寺として、京都から招かれたと伝えられています。

寺地は平野家のもと蔵屋敷跡を寄進され建立したといわれています。平野家は日蓮宗でしたが、田原本に陣屋を置くようになって浄土宗に改宗したため、日蓮宗信者の家臣のために長頭寺を建立したともみられています。

平野氏五千石の陣屋町・寺内町

④平野氏陣屋跡・旧町並み



▲平野氏陣屋跡の案内板(町民広場南端)



▲旧町並み

文禄4年(1595)、長泰は「賤ヶ岳の戦い」での功績を認められ、大和国十市郡内に五千石の領地が与えられました。2代目長勝が陣屋を築造し、奈良と吉野を結ぶ交通の要衝として発展しました。陣屋は残っていませんが、古い町の面影があります。